

議員提出議案第〇号

二宮町子どもも大人も輝く心身きらり健康づくり条例
の制定について

上記の議案を、別紙のとおり二宮町議会会議規則第13条第2項の規定に
基づき提出する。

平成30年2月27日

二宮町議会議長 二見泰弘 殿

提出者	二宮町議会議員	前田憲一郎
賛成者	同	一石洋子
同	同	小笠原陶子
同	同	露木佳代
同	同	渡辺訓任
同	同	根岸ゆき子
同	同	添田孝司

二宮町子どもも大人も輝く心身きらり健康づくり条例

二宮町は、温暖な気候、吾妻山からの眺望と散策路、里山風景にみる四季のうつろい、潮騒など、人々の五感を喚起する自然環境に恵まれ、長きにわたり長寿の里として親しまれてきた。しかし時代とともに、核家族化や情報機器の飛躍的普及といったライフスタイル、食・運動・睡眠などの生活習慣、子どもの遊びなどを取りまく環境が変わってきた。成人においては、平均寿命の延伸に伴い、糖尿病などの生活習慣病や癌、認知症など、医療・介護を必要とする人が増え、子どもにおいては、体力低下や生活習慣病の低年齢化が進み、あらゆる世代において、心の健康を損なう傾向もみられる。また、乳幼児・障がい者・高齢者の支援者が疲弊する場面が生じている。健康は個人や家族で管理すべきものと捉えられていたが、社会的な課題としても取り組まれるようになり、二宮町では健康づくりを推進するため、基本的な各計画に基づいて諸施策を進めてきた。

誰もが持続可能な地域社会を形成する一人として、生涯にわたって心も身体もきらりと輝いて生きることを目指し、健康づくりはさらに継続的、計画的、総合的に行われ、かつ創造的でなければならない。私たちは、わが町において、「心身きらり」の実現ができると確信し条例を制定する。

(目的)

第1条 この条例は、心身きらりを目指し、基本理念を定め、町民及び町の取組並びに地域活動団体及び事業者の役割を明らかにするとともに、健康づくりの推進について基本的な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 心身きらり 心と身体がともに健康である状態をいう。
- (2) 健康づくり 心と身体の健康の維持及び増進を図るための取組をいう。
- (3) 町民 町内に居住する者、通勤通学する者、町内で事業を行う者をいう。
- (4) 運動 体力の維持及び向上を目的として計画的又は意図的に実施するものをいう。
- (5) 地域活動団体 町内において、健康、福祉等に携わる団体をいう。
- (6) 事業者 町内において、事業を営む個人又は法人その他の団体をいう。

(基本理念)

第3条 心身きらりの実現は、幸福を追求する礎のひとつであり、生涯にわたり人とつながり、安心して心豊かな生活を営むことである。誰もが、あらゆる機会と

あらゆる場面において、主体的に健康づくりに取り組める地域社会の実現をめざす。

(町民の取組)

第4条 町民は、健康づくりに対する関心及び理解を深め、自らの健康状態を把握し、状況に応じた対策及び生活習慣の向上を図るよう努めるものとする。

2 町民は、健康づくりの推進に関する活動に参加するよう努めるものとする。

(町の取組)

第5条 町は、この条例の趣旨を踏まえつつ、健康づくりに関する施策を策定し、計画的かつ効果的に実施し、町民の健康づくりを推進するものとする。

2 町は、健康づくりに関する町民、地域活動団体及び事業者の意識の向上を図るよう努めるものとする。

3 町は、健康づくりを推進するため、町民、地域活動団体及び事業者の意見を反映させ環境の整備を図るものとする。

4 町は、町民、地域活動団体及び事業者と協働して健康づくりを推進するため、情報提供、意見交換及び学習の機会を設けるものとする。

5 町は、町民の健康状態等に関する調査及び分析を行うとともに、施策を評価し公表するものとする。

6 町は、健康づくりの推進に関する施策の実施に関し、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

7 町は、健康づくりを推進するために、国、県及び他の市町村等と連携を図るよう努めるものとする。

(地域活動団体の取組)

第6条 地域活動団体は、町民、町、他の地域活動団体及び事業者との緊密な連携を図り、健康づくりに関する活動を行い、互いに協力するよう努めるものとする。

(事業者の取組)

第7条 事業者は、その事業に従事する者の健康に配慮した職場環境の整備に努めるとともに、健康づくりに関する活動を行い、施策に協力するよう努めるものとする。

(心身きらり推進期間)

第8条 町は、町民の関心と理解を深めるため、心身きらり推進期間を設けるものとする。

(委任)

第9条 この条例の施行に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

「二宮町子どもも大人も輝く心身きらり条例(案)」に対する意見募集の結果

「二宮町子どもも大人も輝く心身きらり条例(案)」への意見を募集したところ、貴重なご意見をいただきました。二宮町議会の考え方をまとめましたので公表いたします。

【意見募集の概要】

- (1)募集期間 平成 30 年 1 月 5 日から平成 30 年 1 月 25 日まで
- (2)意見等提出者数 4 名
- (3)意見の内容及び二宮町議会の考え方(以下一覽)※意見は原文のとおり

項目	意見	二宮町議会の考え方
全体 (4 件)	<p>国に「健康増進法」があるところへ、さらに自治体がこのような規制に近い条例を作る必要があるか、というのが私の基本的な考えです。</p> <p>あの法律も人権無視の悪法だと思っていますが、出来てしまった以上、仕方ありません。ならば、これ以上窮屈な制度を重ねて欲しくはないというのが正直な感想です。</p> <p>はっきり言って、この条例における具体的な活動がよく分からないので、それが曖昧であればあるほど、何でも包括し、いろいろな側面で個人生活に介入してきそうで、憂鬱です。健康は確かに望ましいことですが、強制することではありません。生まれつき身体が脆弱な人にまでも「健康たれ！」と言うようなことに、賛成できません。</p> <p>さらに、私は喫煙者なので、根拠の薄弱な「受動喫煙の害」をことさら言い立てる今の社会にうんざりしています。これが行き過ぎれば、東京都の条例のように個人の家庭にすら侵入・介入にきてきて恥じなくなります。</p> <p>むしろ長寿の里が目指すべきは「安心して死ぬる町・二宮」だと思います。子や孫の世代が立派に育つのが見届け、その笑顔を見ながら未来を信じて昇天するのが幸福というものではないでしょうか。それは、「心身きらり」という雰囲気だけの掛け声では、到底達成されません。</p>	<p>町では、6つの計画（二宮町健康増進計画・食育推進計画、二宮町子ども・子育て支援事業計画、二宮町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画、二宮町障害者福祉計画、二宮町地域福祉計画、二宮町総合計画）が策定されていますが、本条例を制定することにより、それらの取組みを部署を超えたものにして実効性を高めていきます。</p> <p>健康づくりは強制ではありませんが、健康づくりを支える環境は社会性があると考えます。</p> <p>健康については「障がいの有無にかかわらず、肉体的にも、精神的にも、社会的にもすべてが満たされた状態である」という WHO の定義を受け止めたものです。</p>

この条例制定に反対します。理由は以下のとおりです。

条例が何のためにあるのかがおわかりでしょうか。住民は主権者です。条例を守るのべきは「公務員」であり、住民であってはなりません。

「責務」で縛るのは「二宮町」で憲法と同じです。

法の役割、憲法が保障する心身という町民の自由が一番尊重されるべき領域に公権力（二宮町）が「町民の責務」を規定するのは、憲法 13 条の「生命・自由・幸福追求権」や憲法 97 条に「基本的人権の不可侵」、さらには第 20 条の「信教の自由」に抵触し、差別を生む危険性を持っています。また団体活動の自由を侵し、差別を生む危険性もあります。障がいを持っている人、怪我や病気、体調不良が原因不明で苦しんでいる人、考えも多彩な様々な人たちが地域社会で暮らしています。時の変化で何が健康づくりなのか何が健康に良いのか変わり、不明確な中で、「誰もが主体的健康づくりに取り組む地域社会をめざす」というのはナチスドイツや旧日本帝国などの軍国独裁政権での優生思想に通じる気持ち悪さを感じます。

また、町民の責務、地域活動団体の役割という縛りをかけてまで、何を定めたいのかわかりません。健康の定義もなく、具体的に何が盛り込まれたのかわからないので、それが曖昧であればあるほど、何でも包括し、いろいろな側面で個人生活に介入してきそうで、危険です。健康は強制することではありません。

さらに、条例を制定する場合、その条文解釈や町民意見の反映などの制定過程を明らかにして、条例案の意見聴取をするのが望ましいと思いますが、この条例案の資料はそのようなものが、ほとんどありません。それが町民を代表する議決機関である議会がとりまとめたならば、なおさら範を示す必要があります。

条例づくりは条項をつくるだけのことではありません。法の在り方や様々な事例を想定した研究、実態調査、関係者の調整をしたうえで、政策化し、その仕組み、仕掛けをつくるために条例があるのではないのでしょうか。

町では、6つの計画（二宮町健康増進計画・食育推進計画、二宮町子ども・子育て支援事業計画、二宮町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画、二宮町障害者福祉計画、二宮町地域福祉計画、二宮町総合計画）が策定されています。それらの取組を本条例で制定することにより、部署を超えたものにして実効性を高めていきます。

健康づくりは強制ではありませんが、健康づくりを支える環境は社会性があると考えます。

健康については「障がいの有無にかかわらず、肉体的にも、精神的にも、社会的にもすべてが満たされた状態である」という WHO の定義を受け止めたものです。

本条例の策定には、他自治体の条例を調査し、先進自治体の視察を行うとともに、町民の健康状況についての情報収集、町などとの調整を進めました。

また、議会主催で町民と意見交換会を実施しました（2015年12月17日・19日、2016年1月27日、2017年7月17日）。意見交換会の内容はHPに掲載しています。また、本条例は理念条例であり、関連する既存6計画を考慮・勘案、検討を重ねました。

	<p>理念は理解でき「長寿の里二宮」に相応しいと考える。</p> <p>理念にある内容は幅広く、「心身きらり」が幅広くカバーする理念であるとの理念が序文から分かる。</p> <p>一方で、条例と言うよりも「町民憲章」を補完する意味があると感じとった。</p>	<p>ご指摘のとおり、本条例は理念条例です。</p>
	<p>健康はどの方にも重要なもので欠かさないものだと思います。</p> <p>それは人間として当たり前のことで、町の条例に制定する必要はあると思えません。言い回しも強制的な言い回しです。努めるということは、努めたくてもできない人がいるのです。障害、病気など、抱えたくなくても抱えている人がいる。健康を促すイベントなどあるのは問題ありません。ですが、町民に対して強制を強いるような言い回しは条例にすべきではないと思います。</p>	<p>健康づくりは強制ではありませんが、健康づくりを支える環境は社会性があると考えます。</p> <p>健康については「障がいの有無にかかわらず、肉体的にも、精神的にも、社会的にもすべてが満たされた状態である」という WHO の定義を受け止めたものです。</p>
<p>条例名</p>	<p>条例名は、その条例が何を規定しているかわかる名前をつける必要がありますが、「子どもも大人も輝く心身きらり条例」は類推できず、条例名としては不適切です。</p>	<p>健康づくりという観点を明確にするため、「子どもも大人も輝く心身きらり健康づくり条例」とします。</p> <p>他の自治体でも、従来のものに加えて、理念を表す条例名があります。</p>
<p>第1条</p>	<p>(目的)</p> <p>「町民及び町の責務」は第4条に町民に責務の規定があり、「町民の責務」が大きな柱となっていますが、条例が何のためにあるのかがわかりでしょうか。住民は主権者です。条例を守るのべきは「公務員」であり、住民であってはなりません。「責務」で縛るのは「二宮町」で憲法と同じです。「町民及び」を削除する必要があります。また、「地域活動団体及び事業者の役割」も同じことです。</p> <p>この条例の目的は「健康づくりの推進について基本的な事項を定めること」となっていますが、基本的な事項がわかりません。</p> <p>今回の条例は議会が提案しているので、政策的条例だと思いますが、何が政策として盛り込まれたのか、盛り込みたいのかわかりません。障がいを持って生れてきたり、怪我や病気で障がいを持った人はどうなるのでしょうか？心が健康な事は必要だけれど、心が病んでしまうような社</p>	<p>本条例は理念条例であり、町民に順守を強いるものではありません。従って、「責務」についても強制性はなく、努力規定と捉えています。条文見出しの「責務」(第4条・第5条)・「役割」(第6・第7条)を「取組」に変えることで、自主性を強調しました。</p> <p>健康については「障がいの有無にかかわらず、肉体的にも、精神的にも、社会的にもすべてが満たされた状態である」という WHO の定義を受け止めたものです。</p> <p>本条例の策定には、他自治体の条例を調査し、先進自治体の視察を行うとともに、町民の健康状況についての情報収集、町などとの調整を進めました。</p> <p>また、議会主催で町民と意見交換会を実施しました(2015年12月17日・19日、2016年1月27日、2017年7月17日)。意見交換会の内容はH</p>

	<p>会システムや格差があり、それを解決できない社会なのに町の条例で一律に規定することは無理があるではないでしょうか。</p> <p>条例づくりは条項をつくるだけのものではありません。法の在り方や様々な事例を想定した研究、実態調査、関係者の調整をしたうえで、政策化し、その仕組み、仕掛けをつくるために条例があるのではないのでしょうか。</p>	<p>Pに掲載しています。また、本条例は理念条例であり、関連する既存6計画を考慮・勘案、検討を重ねました。</p>
<p>第1条 第3条</p>	<p>(目的)(基本理念)</p> <p>第1条 目的の最後の段落で「…、健康づくりの推進について基本的な事項を定める」と第3条 「心身きらりの実現は、…生涯にわたり人とのつながり安心して心豊かな生活を営むことである。」とあるが、具体的にどういった施策に結び付くか見えない。目的を目指した次のステップに期待したい。</p>	<p>町では、6つの計画（二宮町健康増進計画・食育推進計画、二宮町子ども・子育て支援事業計画、二宮町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画、二宮町障害者福祉計画、二宮町地域福祉計画、二宮町総合計画）が策定されています。それらの取組みを本条例を制定することにより、部署を超えたものにして、これらの計画の実効性や、他事業で健康づくりの視点が生かされるよう、注視していきます。</p>
<p>第2条 第1項 第1号</p>	<p>(定義)「心身きらり」</p> <p>「心と身体がともに健康である状態」というのはどういう状態をいうのでしょうか。健康の定義が必要です。障がいを持っている人、怪我や病気、体調不良が原因不明で苦しんでいる人も多い社会で、一律に定義できるのででしょうか。</p> <p>「心身きらり」という言葉自体が法律用語、一般用語ではなく、事業名などのキャッチフレーズとして使うのには良いですが、条例に使う言葉として不適切だと思います。</p>	<p>健康については「障がいの有無にかかわらず、肉体的にも、精神的にも、社会的にもすべてが満たされた状態である」というWHOの定義を受け止めたものです。</p> <p>「心身きらり」は条例名と整合性を図りました。「心と身体がともに健康である状態を表し」「町民に親しめるようにしたい」との思いを込めました。他自治体の条例にも、新しい表現が見られます。</p>
<p>第2条 第1項 第5号</p>	<p>(定義)「地域活動団体」</p> <p>地域活動団体の定義が非常に狭義です。何故、「健康・福祉等に携わる団体」とそのまま記載しなかったのか疑問です。</p> <p>また、「等」は曖昧な言葉なので、法令には安易に使わない方が良い言葉ですので、想定する活動を言葉として表記の方が妥当です。</p>	<p>どのような団体であっても、健康づくりに関わることができるよう、広い範囲の団体・グループを想定しています。</p>
<p>第3条</p>	<p>(基本理念)</p> <p>「生涯にわたり人とのつながり安心して心豊かな生活を営むこと」につ</p>	<p>各条項で定める取組みは、「人とのつながり」を大切にしました。</p>

	<p>いての基本的事項が後の条項に定められていません。「誰もが、あらゆる機会とあらゆる場面において、主体的に取り組む地域社会の実現をめざす。」は今までの条項で指摘したように様々な人が地域社会で暮らしています。その中で「誰もが主体的に取り組む地域社会の実現をめざす」というのはナチスドイツや旧日本帝国などの軍国独裁政権での優生思想に通じる気持ち悪さを感じます。不適切な文言です。</p>	<p>また「取り組む」を「取り組める」にし、自主性を尊重する表現に変えました。</p>
<p>第4条</p>	<p>(町民の責務)</p> <p>憲法により、法は、専断的な国家権力の支配を排斥し、権力を拘束することによって、国民の権利・自由を擁護することを目的として存在しています。ですから、町民に規制をかけるのは公序良俗に反するもの以外は限られたもので、公権力（二宮町）がそこから逸脱、濫用されないように条例で規定されているはずです。心身という町民の自由が一番尊重されるべき領域に公権力（二宮町）が「町民の責務」を規定するのは、憲法13条の「生命・自由・幸福追求権」や憲法97条に「基本的人権の不可侵」、さらには第20条の「信教の自由」に抵触し、差別を生む危険性を持っています。第2項の規定は「町民は、健康づくりに関する活動に参加するよう」は、時代の流れの中で何が健康づくりなのか何が健康に良いのか変わり、不明確です。町が行っている健康診断やワクチン接種に疑問を持っている町民もいます この条項は無くすべきだと思います。</p>	<p>健康づくりは、最終的には個人が判断を行うものですが、健康に関する施策は社会的なものであり、最大限のものを提供することが必要と考えています。強制性を求めるものではありません。個々の施策への異論があることは認識しています。</p> <p>本条例は理念条例であり、町民に順守を強いるものではありません。したがって、「責務」についても強制性はなく、努力規定と捉えています。条文見出しの「責務」（第4条・第5条）・「役割」（第6条・第7条）を「取組」に変えることで、自主性を強調しました。</p>
<p>第5条 第5項</p>	<p>(町の責務)「町は、町民の健康状態等に関する調査及び分析を行い」</p> <p>健康状態等の等はどんな事の調査でしょうか。町民の承諾もなく、勝手に調査や分析をされては、プライバシーの侵害です。優生思想につながることもあるので、「承諾を得て、取り扱いに十分留意して」などの文言が必要です。</p>	<p>調査や分析にあたっては、個人情報保護条例の順守が前提です。</p>
<p>第5条 第6項</p>	<p>(町の責務)「財政上の措置」</p> <p>町財政がひっ迫している中で、選択と集中が必要で、優先順位づけ、補助金問題などあり、安易な財政措置はやめてほしい。</p>	<p>政策の裏付けとしての財政措置は必要であり、全体の予算の中で考慮されるべきです。</p>

<p>第 6 条</p>	<p>(地域活動団体の役割)</p> <p>地域活動団体は町民活動団体と考えると、その活動に公権力が役割など枠組みすることは活動の自由に反することで、反対です。行政が相談に乗ったり、情報を提供することと連携は違うと思います。連携をするには対等となる仕組みをつくる方が先決だと思います。</p> <p>地域活動団体は先見性もあり時には健康づくりの面で、町や他の団体が推進している事業に反対する団体もでてくるはずですが、そこに連携を必ず求めるのは問題があり、団体間に差別を生む危険性もあります。連携するか否かは当事者（団体）の意思のほうです。</p> <p>この条項は無くすべきだと思います。</p>	<p>活動の自由を制限するものではなく、「努める」という中で自主性を重んじています。</p> <p>条文見出しの「責務」（第 4 条・第 5 条）・「役割」（第 6・第 7 条）を「取組」に変えることで、自主性を強調しました。</p>
<p>第 8 条</p>	<p>(心身きらり推進期間)</p> <p>「町は、町民の関心と理解を深めるために」とこの文章自体が上から目線、権威主義を感じる表現です。</p> <p>町民の健康づくり活動が活発な中で、こういう期間が必要だという具体的な要請が出てきて期間をつくるべきです。</p>	<p>健康への意識を高めるだけでなく、推進期間を設けることで幅広く健康づくりの情報を提供したり、きっかけづくりとするために必要と考えます。</p>

経過報告書

二宮町子どもも大人も輝く心身きらり健康づくり条例の制定について

1. 検討期間

平成27年3月19日～平成30年2月15日

2. 条例提案にいたるまでの調査・検討を行った委員会

二宮町議会 教育福祉常任委員会

(平成26年12月4日～平成28年12月1日)

委員長	小笠原 陶子 議員
副委員長	野地 洋正 議員
委員	根岸 ゆき子 議員
委員	前田 憲一郎 議員
委員	二宮 節子 議員
委員	露木 佳代 議員
委員	渡辺 訓任 議員

(平成28年12月1日※～)

委員長	前田 憲一郎 議員
副委員長	一石 洋子 議員
委員	小笠原 陶子 議員
委員	露木 佳代 議員
委員	渡辺 訓任 議員
委員	根岸 ゆき子 議員
委員	添田 孝司 議員

※平成28年12月1日の任期が重複しているのは、同日の本会議で委員会構成を改変したため。

3. 常任委員会開催日 ※打合せ・勉強会等の開催状況については、「経過」を参照。

①平成27年 8月24日	⑧平成28年12月 5日
②平成27年12月 7日	⑨平成29年 2月20日
③平成28年 2月29日	⑩平成29年 3月 1日
④平成28年 5月25日	⑪平成29年 5月24日
⑤平成28年 6月 6日	⑫平成29年 7月25日
⑥平成28年 8月24日	⑬平成29年11月22日
⑦平成28年11月21日	⑭平成30年 2月15日

【経過】

平成27年

- 1月22日 打合せ 継続調査案件検討
- 2月12日 打合せ 継続調査案件検討
- 5月13日 勉強会 健康福祉部に高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画並びに地域包括ケアシステムについて聴取りを行った。
- 6月18日 打合せ 課題の抽出、他自治体条例の状況について各委員に振り分けて調査することで合意。
- 7月21日 打合せ 他自治体条例の状況について報告、意見交換。
- 8月 3日 打合せ 条例案に子どもにかかる事項を入れるかで、再度チームに振り分けて検討することで合意。
- 8月20日 打合せ 条例化の意義、町民の意向の反映のしかたなどについて意見交換。
- 8月24日 **常任委員会**
・継続調査案件の進捗状況について確認。
- 11月 4日 打合せ 町民との意見交換会開催について検討。
- 11月20日 打合せ 町民との意見交換会のタイトル、当日の内容等について検討。
- 12月 4日 打合せ 意見交換会チラシ掲示・配布について検討。
- 12月 7日 **常任委員会**
・継続調査案件の進捗状況について確認。
- 12月14日 打合せ 意見交換会の事前打合せ。
- 12月17日 ◆条例づくりフォーラム（町民との意見交換会）開催。
- 12月19日 ◆条例づくりフォーラム（町民との意見交換会）開催。
- 12月22日 打合せ フォーラム振り返り・まとめ作業など。

平成28年

- 1月14日 打合せ フォーラム振り返り・まとめ作業。視察の事前打合せ。
- 1月20日 静岡県三島市視察研修。「健康づくり条例について」同日（視察終了後）、視察のまとめ作業。
- 1月27日 ◆条例づくりフォーラム・フォローアップ編（町民との意見交換会）開催。
- 2月 8日 打合せ フォーラム振り返り・まとめ作業。
- 2月18日 打合せ フォーラム振り返り・まとめ作業。
- 2月29日 **常任委員会**
・継続調査案件の進捗状況について確認。

4月 8日	打合せ
4月19日	打合せ
5月13日	打合せ
5月16日	勉強会 執行者側（健康福祉部）に経過説明、意見交換。今後の予定を伝達し、協力を要請。
5月23日	執行者側より、全面的に協力する旨の回答あり。
5月25日	常任委員会 ・継続調査案件の進捗状況について確認。 全文・第1条の文面について検討。
6月 6日	常任委員会 ・継続調査案件の進捗状況について確認。
6月10日	打合せ 条例案各条項の作成、加筆・修正作業。
6月23日	打合せ 条例案への加筆・修正作業、意見交換。
7月 3日	◆町民との意見交換会開催。 「心と体の健康のために～健康づくり条例制定に向けて皆様の提案を～」
8月18日	勉強会 執行者側（健康福祉部）との意見交換。
8月10日	打合せ 正副委員長による逐条解説についての意見交換。
8月16日	打合せ 逐条解説について検討。
8月18日	勉強会 執行者側（健康福祉部）と条例骨子について意見交換。執行者側から、各種計画と整合性を保てる理念条例としての性格を念頭に置いてほしい旨の要望あり。
8月25日	常任委員会 ・継続調査案件の進捗状況について確認。
9月 5日	勉強会 執行者側（健康福祉部）と条例案について意見交換。
10月 6日	勉強会執行者側（健康福祉部）から提出された素案をもとに質疑。素案の反映について検討。
10月13日	作業（条文作成）
10月18日	作業（条文作成）
10月24日	作業（条文作成）
10月31日	作業（条文作成）
11月 7日	作業（条文作成）
11月17日	作業（条文作成）
11月21日	常任委員会 ・継続調査案件の進捗状況について確認。 ・条文読み合わせなど。

1 2 月 5 日 常任委員会
・ 継続調査案件の進捗状況について確認。

平成29年

2 月 2 0 日 常任委員会
・ 条文読み合わせ、解釈について意見交換。

3 月 1 日 常任委員会
・ 継続調査案件の進捗状況について確認。

5 月 2 4 日 常任委員会
・ 上程までのスケジュール（関係機関との意見調整）について確認。

6 月 2 8 日 勉強会 執行者側（健康福祉部）と、各種関連計画と条例の位置付け、条文について意見交換。

7 月 1 7 日 ◆町民との意見交換会開催。
「二宮町で健康になろう～心身きらり条例は今～」他

7 月 2 5 日 常任委員会
・ 執行者側との意見交換をふまえて条文の検討。

1 1 月 2 2 日 常任委員会
・ 町民意見募集（パブリックコメント）の実施、上程の日程について確認。

1 2 月 1 5 日 中郡医師会（正副会長・行政担当）への経過説明・意見聴取。

平成30年

1 月 5 日 条例案に対する町民意見募集（パブリックコメント）開始

1 月 2 5 日 町民意見募集（パブリックコメント）終了

1 月 3 0 日 打合せ 意見への回答について意見交換、検討。

2 月 5 日 打合せ 意見への回答を検討。

2 月 1 5 日 常任委員会
・ 意見への回答・条文について最終確認。

2 月 日 意見に対する回答を公表

2 月 第 1 回定例会に上程